

#### 3.4.9 2006年春季(4~5月)分析結果

結果は、以下の表及び図としてまとめた。なお、値はすべてヒ素換算値とした。

表 3.4.11 2006 年春季(4~5月)地下水分析結果一覧表

図 3.4.22 2006 年春季(4~5月)ABトラック地下水 DPAA 汚染状況図

図 3.4.23 2006 年春季(4~5月)A井戸周辺地下水 DPAA 汚染状況図

図 3.4.24 2006 年春季(4~5月)B地区地下水 DPAA 汚染状況図

##### 1) A井戸周辺

A井戸から南西に約10m離れた39孔の深度30mにおいて、最も高濃度(17mg-As/L)を示した。前回高濃度を示していたA井戸から南東に約10m離れた37孔の深度30mの濃度は低下している(12.4mg-As/L 3.2mg-As/L)。

グラウンド北西角の27では前回と比較して濃度が上昇しており(30m、0.79 1.9mg-As/L)さらにNo.27の近傍のNo.155孔の濃度も上昇している(30m、1.6 5.7mg-As/L)。

##### 2) 掘削調査地点

掘削調査の終了に伴い、掘削調査地点に新たに設置した観測孔で有機ヒ素を分析した結果、浅層部(10m)で濃度が高く、深層部(30m)で濃度が低いことが分かった。

浅層部(10m)の濃度は、1.7~8.5mg-As/Lで、コンクリート様の塊撤去前に確認されていた110~150mg-As/Lと比べてかなり濃度が低下している。

また、深層部(30m)の濃度は0.25~0.92mg-As/Lである。

##### 3) B地区

これまでと同様、汚染域に大きな違いはなく、汚染は30mを主体としている。

また、浅層部の汚染は、B地区の中心部だけに非常に低濃度が認められる程度である。

##### 4) AB間

AB間では、前回同様、浅層部(10m)では汚染が全く見られない。

深部では、B地区に近い一部箇所において検出されなかった箇所があるが、汚染はAB間でほぼ帯状に分布している。

##### 5) ABトラック外周

2006 冬季の測定結果に引き続き、南西端のM-20、M-3でDPAAが確認された。前回と比較して濃度に大きな変化はないが、M-3よりM-20の濃度が高い。

外縁部で新たに設置したモニタリング孔(M-24~M-29)においては、2006年3月の測定に引き続き、今回も全ての検体で検出されなかった。



図3.4.22 2006年春季(4~5月)ABトラック地下水DPAA汚染状況図

単位:  $\mu\text{g-As/L}$

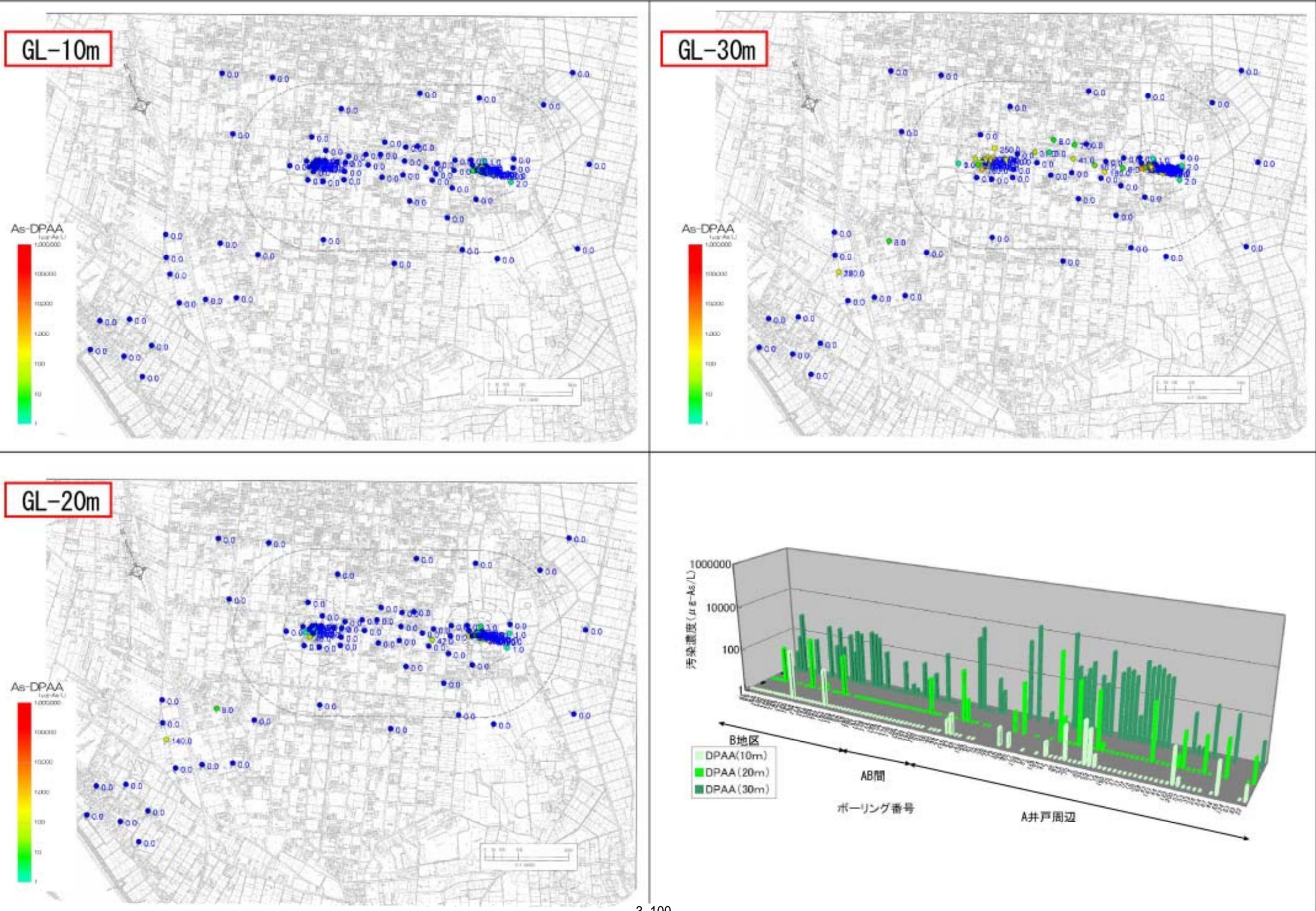




图3.4.24 2006年春季(4~5月)B地区地下水DPAA污染状况图

单位:  $\mu\text{g-As/L}$

